

経営に関する最新情報をお届けします！

経営トピックス

Management topics



「待ったなし！」の コンピューター・ウィルス対策

—自社の信用を守るために—

町田市経営診断協会 新井 一成 (中小企業診断士)

朝出勤してコンピューターのスィッチを入れた時、「ファイルを元に戻すためには身代金を支払え」との脅迫文が表示され、出荷予定の商品の発送先や顧客リストが全て読み出せない…、そんなことを想像してみてください。

五月十三日(土曜日)、サイバー攻撃により、欧州の企業や病院の業務が止まるというニュースが流れました。そして週明けの十五日(月曜日)、日本でも複数の企業がサイバー攻撃の被害を受けたとの速報が出ました。まさに悪夢が現実となってしまいました。

今回「流行」したコンピューター・ウィルスは、「WannaCry(泣きたいよ!)」という名前の「ランサムウェア」＝身代金要求型ウィルスです。これに感染すると、コンピューター内のデータは全て暗号化されて読み出せなくなり、右のような脅迫文が表示され

ました。被害にあった企業は「泣きたいよ!」では済まされません。ランサムウェアに限らず、コンピューター・ウィルスに感染すると、データを破壊されたり、盗まれたり、さらには自分のコンピューターが乗っ取られて他人に操作されることもあります。乗っ取られたコンピューターから取引先にウィルス付きメールを送信する事件もあり、取引先に被害が及べば、自社が加害者となってしまう。

企業経営にとって、コンピューター・ウィルス対策は「待ったなし!」の状況になっていきます。以下、コンピューター・ウィルス対策として大切なポイントを説明します。



① Windowsの更新を欠かさない

残念なことに、コンピューター・ウィルスの技術は日々進歩しており、これに対抗するためにWindowsも毎月更新が行われています。米国時間で毎月第二火曜日(日本では翌水曜日)にあ

たる)に更新が行われますので、「自動更新」を使って、確実に更新を行いましょう。まれに、自動更新が失敗することもありますので、「Windowsの設定」画面で更新状態が最新であることの確認をしましょう。

② ウィルス対策ソフトの導入と更新

ウィルス対策ソフトは、侵入するコンピューター・ウィルスを検知して侵入を防止します。ウィルス対策ソフトは必ず導入し、これも「自動更新」で、最新状態に保つことが重要です。Windowsやウィルス対策ソフトの更新確認は個人任せにせず、例えば毎月「セキュリティチェックの日」を決めて全員で確認するなどがお勧めです。その他のソフトも、ベンダーから提供される更新に注意が必要です。

③ 定期的なデータのバックアップ

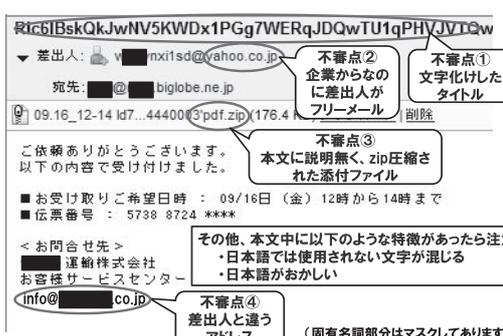
万一ランサムウェアの被害にあった場合に備えて、重要なデータは定期的におこなう外部接続ディスクにコピーして保存しておきましょう。外部接続ディスクは、ランサムウェアの影響を受けないように、普段はコンピューターから切り離しておきます。データのバックアップを行う方法は、他にもいろいろとありますので専門家に相談してみてください。

④ 不審なメールに注意

コンピューター・ウィルスは、電子メールに添付されたり、メール本文に

記載されたアドレスに仕掛けられたりしています。心当たりの無いメールや、いつもと様子の違うメールを受信した場合には、添付ファイルやアドレスをクリックせずに慎重に調べるよう、従業員全員に徹底してください。知っている差出人からのメールでも不審を感じたら、電話などで差出人に確認することも有効です。

左の図は筆者が実際に受信した不審メールの例です。不審点として注意事項を記載しましたので、参考にしてください。



コンピューター・ウィルス対策を怠ると、自社の業務が止まるだけでなく、お客様からの信用を失うことにもなりかねません。これを機に、自社の対策についても一度見直してみてください。少しでも疑問を感じたら、専門家に相談しましょう。

東京都産業労働局にも相談窓口があります。また、ウィルス被害が疑われる場合は、政府機関であるIPAの情報セキュリティ安心相談窓口も利用できます。